

## 小4 学習活動案①の振り返りのポイント

### —導入の大切さ—

#### 子供の興味関心・書くことへの動機付け

- 導入で子どもたちの興味関心を高めたり、友達と楽しく話せたりすることが刺激となり、自分の考えがクリアーになって、子どもの内面から書きたいことが沸き起こり、その後の「書く課題」へのモチベーションへと繋がった。
- 少人数の補習校では、ゲームをしなくても、文章を書く前に全員でなるべくたくさん意見を出し合えるよう時間をとることで効果があった。
- 日本語力のレベルに差があっても柔軟に対応できた。

### —展開の工夫—

#### カードを活用したスモールステップ

- 作文が苦手な子どもたちでも、カードを使って、そこから肉付けしていくことで、段落やバランスを意識した文章が書けることを学ぶことができたのではないかと思う。
- 子どもたちがカードに集中して抵抗感がなく取り組み、教師も机間巡視で助言をするときカードを手にとって見て指導しやすかった。
- 苦手なカタカナや漢字も使って書こうとする意欲が見られた。
  - ・理由と事例を一緒に書いてしまっている子供がいたため、カードを工夫する必要がある。
  - ・教師のモデル文や友達の参考例に影響される子供もおり、このような子供の考えが広がらなかったことは課題。
  - ・ワークシートは、子供によっては unnecessaryな項目があるため、仕上げは原稿用紙にした。

### —家庭学習—

- 授業で学んだことを家庭学習でも生かすように、違うテーマで同じ意見文を書く課題を出し、「なぜかという〜」というように違う別の表現を使った。
- テーマを音読課題にも関連付けた。
  - ・家庭での課題（カードに事例を書くこと）が分からず、保護者から問い合わせがあった。

### —まとめ—

- 発表は、ペアで3回行った。友達の意見文を読めない子供もいるので、聞いて理解できたり繰り返し発表したりできるのがよかった。
- 早く終わったペアには理由等も伝え合うよう指示して、個々のレベルに合わせて学習を深められるようにした。

—その他—

- 学習活動の時間設定にゆとりがあり、子供も教師も無理なくできた。教師の準備にかかる負担が少なく、楽しく実践できた。
- 今回の実践で最も良かったことは「子供たちが書くことを楽しいと思えたこと」。
- ダラスの4年生は3クラスあるので、主な学習活動は同じでも、各クラスの実態に合わせて工夫している。
- 今回の学びはどの単元でも応用できる。スキルを身につければ、時間も短縮できる。
- 毎回というわけにはいかないが、今回のような学習活動も経験させることは有効。